

## 新規就農者のいちご 出荷のピークを迎える

稲葉友和（いなばともかず）さん（40歳）は、平成25年から三原市大和町でいちご、水稲、スイートコーンの栽培に取り組んでいます。特に経営の中心となるのが10aのハウスでのいちご栽培で、品種は「とちおとめ」、「紅ほっぺ」です。稲葉さんは、それまで市外で他産業に10年以上従事し、農業の経験は全くありませんでした。当地域でいちご栽培に取り組むことになったきっかけは、奥様の地元であったこと、また、奥様のご両親がいちごを栽培されていたため取り組みやすかったことなどです。



【いちごの管理をする稲葉さん】

三原市では新規就農者の育成に力を入れており、稲葉さんも三原市園芸振興センターでの研修や集落法人での就農を経て、独立までの準備をすすめてきました。現在では、稲葉さんのいちごを食べることを楽しみにしている方もおられ、本人は、「いちご栽培は難しい。でも、おいしいと言って買ってくれる人がいてうれしいし、やりがいがある。これからも頑張って続けたい。」と意欲的に取り組んでいます。今作のいちごの出荷は、12月から開始して、現在出荷のピークを迎えており、5月まで続く予定となっています。また、平成29年にはハウスを3a増設し、いちごの出荷量5,200kgを目指します。

今後とも、東部農業技術指導所では、三原市、市園芸振興センター、JA等関係機関と連携して、稲葉さんをはじめとする新規就農者の育成を推進していきます。